

2025年11月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 11月えんだより

11月聖句：「神は愛です。」

<ヨハネの手紙Ⅰ 4章16節>

長く続いた残暑がようやく落ち着いたかと思うと、あっという間に秋の気配が過ぎ去り、朝夕には冬の訪れを感じるような日も増えてきました。服装に迷うほどの気候が続きますが、「スポーツの秋」という言葉のとおり、子どもたちは今も元気いっぱいです。運動会は終わりましたが、異年齢の子ども同士で自然とリレー遊びが始まり、過ごしやすいくこの季節の中で、身体を思いきり動かして遊ぶ姿が見られます。

園の門の上のぶどうの木や、裏の畑の柿の木にも、今年もたくさんの実がなりました。まさに「実りの秋」、収穫の喜びを子どもたちと共に味わっています。特に柿は大きな籠いっぱい実り、神様からの自然の贈り物として感謝の気持ちでいただきました。ご家庭でもその恵みを楽しんでいただけたでしょうか。

今月の聖句は「神は愛です」です。とてもシンプルでありながら、最も力強く心に響く御言葉です。1549年、フランシスコ・ザビエルによって日本にキリスト教が伝えられた際、言葉の壁の中で最も伝えられたメッセージが、この「神は愛です」という教えだったといわれています。そのとき日本語に訳され用いられた言葉が「ごたいせつ」でした。

「ごたいせつ」という言葉には、神様の愛の本質が込められています。性別や年齢、家柄や身分、国籍に関わらず、私たち一人ひとりがかけがえのない存在であるということ。現代には「愛」という言葉やハートのマークがあふれていますが、そこに「ごたいせつ」に思う心——相手も自分も同じように大切にすること——が、少し薄れてしまっているのかもしれない。

聖書には、この聖句の少し前に「神は独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです」と書かれています。神様は、私たちが愛したから愛してくださるのではなく、条件のない愛で、すでに私たちを愛してくださっています。そして「神がこのように私たちを愛されたのですから、私たちも互いに愛し合うべきです」と続きます。

私たちの社会では「効率」や「結果」が重んじられることが多いですが、私たち一人ひとりが「ごたいせつ」にされている存在であることを感じるとき、他者を思いやる心も自然に生まれます。その日々の小さな関わりの中にこそ、神様の愛が生きているのだと思います。

今年もまもなくクリスマスを迎えます。神様が私たちにくださった最大の贈り物、イエス様を思いながら、子どもたちと、そして私たち自身も互いに「ごたいせつ」の心を日々感じ合える11月を過ごしていきたいと思います。

年主題：「ともに」 年主題聖句：「わたしはあなたと共にいる。」（イザヤ書43章5節）

11月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	みつけた／じっくりと	神さまありがとう／気づく
	・保育者の祈りやさんびかを通して神さまを感じる ・興味関心が広がり、声を出して表現するようになる ・賛美や祈りを通して神さまを身近に感じる ・やりたいこと、興味があることにじっくり取り組む ・自然の恵みに感謝し、遊びや生活に取り入れる	・庭の木々や周りの自然から秋の深まりを感じ、秋の収穫を神さまに感謝する ・友だちとイメージを共有し、絵本やお話の世界を楽しむ ・自然物を見つけたり触れたりしながら、遊びの中に生かそうとする ・実りをくださった神さまに感謝し、収穫物をともに分かちあい食する喜びを感じる。自然の変化から神さまのなさることの素晴らしさを体感する ・友だちと気持ちが通じ合う経験も折りあいをつける経験も重ねながら、友だちと関わって過ごすことをより楽しむようになる ・色づいた葉や木の実から季節の移り変わりによる自然の変化に気づく。そして実際に見て触れ、製作やごっこ遊びに生かす
讃美歌	おほしがひかる	あなたの平和の 聖歌集増補版1